

慶蔵院寺報

公孫樹

2021年9月発行

第116号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



雨の中の棚経参り 西里定一 画

待っていてくれていてくれる人がいて…ありがたい

八月十二日午後の棚経は、大雨にたたられた。川元さん宅にたどり着いたときは膝から下がずぶ濡れ。玄関でタオルをもらって拭かせていただいたものの、座布団が吸い取ってくれたようなもの。ナシをご馳走になり雨宿り…、止みそうにもない。様子を見て隣の橋爪さん宅へ…。玄関にタオルを用意して待っていてくれる。…

表紙絵作者の西里さん宅が終わり、あと八軒。小降りになっている。「雨の中を棚経に回る和尚を表紙絵に描こうと思う」…と、西里さんがずっとカメラを持って、ついてきてくださった。傘もささずに、前や後ろからシャッターを切る音がある。中尾さん宅がこの日最後の棚経。帰り、寺まで堀江さんが車で送ってくれて一日を終えた。

紙面の関係上縮小してはいるが、たくさん写真の中から、描いてくださったものを掲載。

昨年にくくコロナ禍、東京在住の副住職が帰省できず、住職一人での棚経となり、たくさんの方の助けを得て、無事に回らせていただくことができた。寺世話人さんは、昨年同様、車を出してくれた。十日の午前には太田さん、十一日の午前には奥野さん、(この方は、寺世話人さんの手伝い、男性詠唱隊・朝の勤行メンバー。)午後は大西稔さん。十二日午前が奥田さん。十三日午前が山西さん。午後が飯田さん。そして十四日午後は、今年も「てらこや塾」卒業生のキラウちゃんと一緒に歩いてくれた。これも励みになる。

今年からお檀家さん以外でご縁のあった信徒さん宅の棚経は七月盆として、七月十四・十五・十六日で回らせてもらった。コロナ禍の中、これからの見通しを考えてゆくと、今後につながる成果であったと思っている。

9月の行事予定

新型コロナ対策に十分気を付けて取り組みましょう。



1日(水)	写経 映画会	午前10時～ 午後7時半～
8日(水)	念仏会	午後7時半～
15日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後1時～ 健康教室・歩き方教室 参加費500円 (中止の場合があります。) 午後7時半～
21日(火)	『国際平和デー』 鐘の音とともに祈りを	正午より5分ほど釣鐘を鳴らします。ご協力よろしくお願ひします。
22日(水)	読経会	午後7時半～
23日(木)	秋彼岸法要	午前10時～
25日(土)	戦没者慰霊	午前11時～
9日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時
24日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 子ども 無料 大人 500円

慶蔵院豆知識

⑬

この夏の異常気象のもたらした自然災害、そして長引くコロナ禍、副任職は帰省できず、任職一人での棚経回り。お檀家のみなさんにご理解いただき、寺世話人さんに助けられて、二十四日、地藏盆での初盆精霊送りまで、お盆のお勤めを無事に終えさせていただけたこと、皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

七月も半ばとなると、境内は、シャーシャーとけたたましく鳴くクマゼミの声に包まれます。

ある朝のこと、いつものように六時に始まった本堂での勤行。五・六人のお参りの方と静かに唱えられているお経が、木魚念仏に変わった時のことです。昨夜のうちに這いあがり孵化していたのでしょう。天井から下がる電灯のあたりでクマゼミの声。一匹だというのにその鳴き声の大きいこと大きいこと。ビリビリと頭上に響きます。廊下に控えていた私には、念仏の声も届きかねるほどです。任職が負けじと大きな声を出して木魚を叩きなおします。お参りの方々も笑いながら続きます。

クマゼミの方が「何か様子が違うぞ…」と感じたのでしょうか。声はピタリと止み静かになりました。窓から出ていったところは見ていませんが、朝の一瞬の出来事でした。

(栄子)



浄土宗新聞を無料でお渡しします！！

9月号読みどころ

P.9

小和田哲男さんの「あの言葉に想う」の中に語られていたのが「歴史は鏡である」という言葉です。平安時代には「大鏡」、「増鏡」、「今鏡」などと「鏡」という言葉がついた歴史物語がつけられました。それは鏡に過去を写して、その光で今度は未来を照らすという意味があるからだ…未来のために歴史があると小和田さんは語っています。

P.8

閻魔王の元に行った吉蔵の前に父母が現れた。「おまえに自分たちのいる極楽を見せてやりたい…」そして「念仏する者の蓮華は日々に繁茂するが、念仏怠惰の者の蓮華は枯れしぼむ」「この念仏池のことを縁ある人に語り聞かせよ。ただし、縁なき者には決して語ってはならん」「早く帰れ」と言って金色の姿になって飛び去った。父母は熱心な念仏者であり、特に父は一日6万遍を称える人であったという。吉蔵は葬式の前日に生き返ったという。



新米に今宵晩酌の酒

(「知恩」誌九月号「柳壇」に掲載)

奥田悦生

秋彼岸のお塔婆の申し込みは9月11日(土)までに、寺世話さんまたは慶蔵院までお願いします。11日以降は、直接慶蔵院までお届けください。

☆ご連絡☆

「欣浄寺再興基金」

勧募をすすめるにあたって

伊勢の欣浄寺様が、7月8日、漏電による火災によって全焼、ご住職も助からなかったこと…、新聞紙上等でご存じのことと思います。南無阿弥陀仏。

隣寺の焼失は、他人ごとではありません。なんとかできることはないか…とっていた矢先、7月27日付けの文書で、伊勢教区教区長様より各寺院に、「欣浄寺、復興のための基金への協力要請」がとどきました。

さっそくに慶蔵院として些少の浄財寄付に応じさせていただきました。あわせて檀信徒の皆様への基金勧募の訴えはどうすればよいのか…問い合わせたところ、この文書をもって各寺院判断にてすすめてもらってはどうか…とのことでした。

全寺院一斉に取り組むことができなくても、できることからすすめつつ、大きな流れになっていければ…と思います。慶蔵院としては、8月31日の寺世話人五役会議で審議していただき、10月には、檀信徒の皆様への浄財の寄付のお願いをさせていただきたいと願ってい



大洋に
浮ぶ小舟よ
どこへ往く
東西
南北
すべて極楽
中野美子 美上人

大海原を小さな小舟に乗ってさまよっているかのよう
な人生。マストは折れ、オールもなくなってしまうた小
舟。海水を掻い出しながら、沈没するかもしれない…と
不安な毎日。小舟がどこに流れ着くかもわからない…。

地獄に流れ着いたら閻魔大王が即座に問うだろう。

「汝、仏法流布の世に生まれて何ぞ修行せずして徒に帰
り来るや」と。(浄土宗新聞九月号、ハペーシ参照)

修行といわれても何をしようのか、わからない。小
舟の中で出来る修行などあるはずがない。修行できるほ
どの気力も体力ものこされていない…。そこに、どこか
から声が聞こえてくる…。

「なむあみだぶつ。称えてこらんさい。心が安らい
できませんか。だいじょうぶ…だいじょうぶ…」

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。称えてみる。小舟に身
をゆだね、大海に身を任せ、心、揺らぐことなく称えて
みる。小舟がスベルように進み始めた…。念仏を称え
ることを、教えてくれてありがとう。

横井久美子は「歌にありがとう」と歌った。

「歌は私に教えてくれた。この世にどれほどの悲しみと
痛みがあるかを…一人を怖れるな、すべては一人からは
じまると…歌は私に示してくれた。人間が積み上げた英
知を、人生の深さを。歌は私を清めてくれた。あるがま
までいいと。まっすぐ顔を上げて生きてきたねと…。こ
んなにも私が愛を感じるの、こんなにも人生を美しく
感じるの、歌があったから。歌にありがとう。あなた
にありがとう」

横井久美子にとっての歌は、お念仏。あなたは阿弥陀
佛。南無阿弥陀仏にありがとう。